



1 玉宝寺の五百羅漢
ぎょくほうじのごひゃくらかん
玉宝寺は、天文3年(1534)小田原北条氏の家臣・堀和伊予守により建立された。木彫りの五百羅漢像は、宝暦7年(1757)の完成で、本堂に所狭しと並列するさまは壮観であり、市の指定文化財となっている。



2 久野古墳群
くのこふんぐん
久野古墳群は「久野百塚」「久野九十九塚」といわれるほど数多くの古墳が分布しており、120基ほどあったと考えられている。1号墳は「百塚の王」といわれ、直径は60mを超えると考えられている。4号及び15号墳は復元され、見学できるようになっている。



3 総世寺
そうせいじ
大森信濃守頼明の子である最乗寺十世安叟禪師により創設された。天正18年(1590)の小田原合戦では、羽柴秀次が陣を張った際、寄進した梵鐘が市の指定文化財となっている。総門をくぐったところにあるカヤは、市の天然記念物となっている。



4 中世集石墓
ちゅうせいしゅうせきぼ
大・小126個ほどの河原石が敷かれている敷石遺構は、縄文時代晩期から弥生時代の敷石住居址と推定されていたが、最近の研究では集石墓といわれる中世の墓であるとされている。市の指定文化財となっている。



5 北条幻庵屋敷跡
ほうじょうげんあんやしきあと
北条幻庵(早雲の末子)は、幼少から箱根権現に入寺した後、京都で修業し、北条一の文化人となった。兄・氏綱の逝去後は、3代氏康・4代氏政の後見人として一族の長老的存在となり、北条氏が滅びる8か月前に、97歳でこの屋敷で亡くなったとされる。近くの京福寺の裏手には幻庵の墓がある。



6 県立おだわら諏訪の原公園
けんりつおだわらすわのはらこうえん
里山の自然や生活文化とのふれあいを通じて、遊びながら学ぶ喜び、発見できる喜びを体験できる「ふるさとふれあい公園」であり、未病を改善する取り組みを気軽に実践できる「木病いやしの里の運動の駅」である。自由に作品が作れるクラフトコーナーや、眺望を楽しみながら滑り降りる169メートルのローラー滑り台が人気。



7 小田原フラワーガーデン
おだわらふらわーがーでん
小田原フラワーガーデンは、『花と緑の生活文化の創造』をメインテーマに「豊かなライフスタイルを築く“楽園”づくり」を目指しています。メイン施設の「トロピカルドーム温室」では約300種類の熱帯・亜熱帯植物が植栽され、他にもアルカディア広場周囲に広がる約160品種の高貴な「バラ園」や、溪流沿いから池周囲に広がる睡蓮や花菖蒲も可憐です。「溪流の梅園」では約200品種の「梅」が咲き誇ります。その他、可愛いお花屋さんと美味しいカフェも併設されています。憩いの場として四季折々の花が楽しめる公園です。



8 龍泉寺観音堂
りゅうせんじかんのんどう
開山は弘治元年(1555)で、本尊十一面観音、左に薬師如来と十二神将、右にマリア観音、びんづる、石地藏を安置する(通常非公開)。境内には享保17年(1732)のものをはじめとする寒念仏供養塔が9基並んでおり、非常に珍しい。



9 いこいの森
いこいのもり
豊かな森、清流、きれいな空気。自然に親しみながらバーベキューやバードゴルフ、木工芸体験、森林浴を楽しめる。夏休み期間にはキャンプ場もオープンする。休園日 木曜日(春休み/GW/夏休み期間は無休)



10 こどもの森公園わんぱくランド・辻村植物公園
こどものもりこうえんわんぱくらんど・つじむらしょくぶつこうえん
こども列車やロードトレインに乗って遊べるほか、小田原城アドベンチャー(アスレチック施設)などがあり、園内からは広々とした眺望も満喫できる。隣接する辻村植物公園では、世界各国から取り寄せた西洋草花や樹齢100年を超える梅林など、四季を通じて美しい景観を見ることが出来る。



11 水之尾毘沙門天
みずのおひしゃもんでん
伝承によれば、小田原北条氏のころ、小田原城修繕のために城石の切出しをしていたところ、突然石の間から血が流れ出した。その夜、毘沙門天が夢枕に立ち「わが身を傷つけるな。しかばねをお前を守護してやろう」といった。そこで切出しを中止し、この自然石を本墓として、毘沙門天を祀ったという。



12 からたちの花の小径・白秋童謡の散歩道
からたのはなのみち・はくしゅうどうようのさびのみち
大正7年(1918)から15年(1926)までを小田原で過ごした北原白秋は、この小径を散歩し、代表作「からたちの花」を創作した。市内にはほかに傳達寺(みみずく寺)や旧居跡などゆかりの地も。小田原駅西口と白秋童謡館を結ぶ約4kmの散歩道には案内板などがあり、白秋童謡に思いを馳せることができる。



13 松永記念館・老樗荘
まつながきんねんかん・らうしゅうそう
日本の電力王と呼ばれ、実業界で活躍した松永安左衛門(耳庵)が自宅の敷地内に建設した。老樗荘(国登録有形文化財)は、耳庵が晩年過ごしたところで、茶室等の意匠をこらした近代数寄屋風建築。庭園は「日本の歴史公園100選」に選定されている。



14 古稀庵・板橋の邸園群
こきあん・いたばしのていえんぐん
明治の行末に今に残す板橋界隈は、鉄道(東海道線)が国府津まで開通すると、温暖な気候と美しい景観によって、政財界人の別荘地や保養地として注目された。明治の元勳・山縣有朋の別荘・古稀庵、元首相・清浦奎吾が建て、後に山縣が古稀庵の別荘として使用した皆春荘、実業家・大倉喜八郎の別荘・共寿亭などがある。

小田原市観光交流センター



観光情報の発信を行う観光案内所や寄木細工のコースター作りなどの体験ができます。また、地域の食材を使ったカフェが併設されており、昼食場所やウォーキング後のお休み処、新しいスポットが発見できる施設となっています。また、レンタサイクル「ぐるりん小田原」の貸出を行っています。

開館時間 ▶ 9:00~17:00(カフェは10:00~)
レンタサイクル貸出時間 ▶ 9:30~16:30(最終貸出15:30)
休館日 ▶ 年末年始(臨時休館・開館あり)

16 徒歩で攻めよう総構

総構を歩く方必見! 「はじめての総構」

お勧めの総構スポットのSNS映える写真とその撮影方法を動画で紹介しているほか、あなたにピッタリな総構が見つかる「総構診断」など、はじめての方でも親しみやすいよう、おしゃれでユニークな内容になっています。まずはダウンロードしてみてください。

小峯御鐘ノ台大堀切東堤 三の丸外郭新堀土塁 稲荷森

日本遺産箱根八里(旧東海道) 平成30年5月24日認定

神奈川県小田原市、箱根町、静岡県函南町、三島市を結ぶ旧東海道「箱根八里」は、江戸時代の街道旅を体験するストーリーにより、2018年5月に『日本遺産』に認定されました。「箱根八里」には、『日本遺産』を構成する多くの文化財があり、往時の旅を彷彿させる城下町や宿場町、一里塚、石畳、並木、関所、茶屋のすべてが日本で唯一現存しています。小田原の日本遺産構成文化財は、小田原城跡、かまぼこ通り、ういろうです。

左: 小田原城跡 中央: かまぼこ通り 右: ういろう

2021.09.30000



15 浄永寺
じょうえいじ
弘安3年(1280)に開山された日蓮宗の寺院。寺宝の日蓮上人画像は「日蓮上人蛇身解脱画像」といわれ、県の重要文化財に指定されている。



16 総構(小峯御鐘ノ台大堀切・三の丸新堀土塁・早川口遺構) AR
そうがま(こみねあかねのねのおおひらきり-さんのもるしんぼりどほりいはやくわくちう)
小田原北条氏が豊臣秀吉との合戦に備え、天正18年(1590)までに小田原城とその城下を囲う周囲約9kmにも及ぶ大規模な空堀と土塁を築いた。現在も各所に堀や土塁の痕跡が残る。空堀としては全国的にも最大規模の「小峯御鐘ノ台大堀切」のほか、「三の丸新堀土塁」や「早川口遺構」などは国指定史跡である。



17 大久寺
たいきゅうじ
小田原城主大久保忠世が開基した大久保家の菩提寺。忠世は、文禄3年(1594)小田原城中で死去し大久寺に葬られた。忠世の墓石は携傷も少なく立派なもので、二代城主忠勝など7基の墓石があり、市の指定文化財となっている。



18 小田原文学館・白秋童謡館
おだわらぶんがくかん・はくしゅうどうようかん
本館には小田原ゆかりの文学者の資料、別館の白秋童謡館には北原白秋の資料をそれぞれ展示。庭園の一角には昭和を代表する小説家・尾崎一雄の書斎も移築されている。

開館時間 3月~10月10:00~17:00、11月~2月10:00~16:30(入館は閉館時間の30分前)
休館日 月曜日・年末年始(臨時休館あり)
入館料 大人250円 小中学生100円



19 小田原宿なりわい交流館・街かど博物館
おだわらしゆくなりわいこうりゅうかん・まちかどはくぶつかん
旧網問屋を再整備し、誰でも立ち寄れる街なかの「お休み処」として開館。お茶の提供(無料)もある。周辺には古くから小田原の産業を支えてきた地場産業に関するひと・製品・ものづくりの結びつきを知ることができる街かど博物館(市内17箇所)があり、街歩きスポットに最適。



20 報徳二宮神社
ほうとくのにみやじんじや
江戸時代後期の小田原城主大久保忠真に登用され、数々の業績を残した二宮尊徳翁を祀った社で、明治27年(1894)、当時の人々がゆかりの天守閣下の地を選んで創建した。平成29年には創建120周年事業の一環として、大鳥居が建立された。御用材には辻村山林の樹齢300年の大杉が使用されている。



21 清閑亭
せいかんてい
黒田長成(元貴族院副議長)の別荘として、明治末期から大正初期に建てられた。雁行状平面で数寄屋風の丁寧な造りが特徴。材質及び技法に優れた純和風建築で、歴史的文化的価値が認められ、平成17年(2005)、国の登録有形文化財に登録。



ウォーキングタウンおだわら 散策マップ

中央版



お問い合わせ

◆小田原市観光課 ☎0465-33-1521
<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/kanko/>
◆小田原市観光協会 ☎0465-20-4192
<http://www.odawara-kankou.com/>
◆小田原駅観光案内所 ☎0465-22-2339

ウォーキングマナー5箇条

- ・やおおはよう明るい挨拶さわやかに
- ・信号で、あわてずあせらず待つ余裕
- ・ひろがるな、参加者だけの道じゃない
- ・自分のゴミ、自分の責任もちきり
- ・歩かせていただく土地に感謝して

散策マップは中央版のほか西部版と東部版があります。見どころいっぱいのおだわら観光情報はこちらから。

新型コロナウイルス感染症の影響により、掲載内容が変更となっている場合があります。



22 北条氏政・氏照の墓所
ほうじょうしうじまさ・しうじてのぼしよ
天正18年(1590)に豊臣秀吉が小田原北条氏を攻略した際、徳川家康と外戚関係にあった城主氏直は高野山に追放された。氏政(四代城主で氏直の父)と氏照(八王子城主)の兄弟は切腹させられ、この地にあった小田原北条氏の氏寺、伝心庵に葬られた。墓所は市の指定文化財となっている。



23 荻窪用水
おぎくぼようすい
江戸時代に小田原藩の水田事業として開かれた用水。工事開始は寛政9年(1797)。箱根町湯本付近で早川の水をせき止め、そこから山間を抜け、荻窪へとつながる全長10.3kmの用水路。ところどころに隧道や開渠が見られる。平成23年(2011)、土木遺産に認定。



24 萬松院
ばんしょういん
小田原城主大久保忠世が、織田信長の命令で自害した松平信康(徳川家康の長男)を供養するために建てた寺。荻窪用水を開通させるには、境内を通さなければならなかったため、交換条件で再建された茅葺きの庫裏が現存し、古文書も多数保存されている。



25 山縣水道水源池
やまがたすいどうすいげんち
明治の元勳・山縣有朋が、老後を過ごした別荘古稀庵のために作った水道施設の水源地で、荻窪用水から分している。山縣水道は明治42年(1909)に完成し、総延長は1,860mもある。



26 水車小屋
すいしやこや
明治13年(1880)には、荻窪用水を利用した水車小屋は19軒あったが、現在はこの水車が残るだけである。かつては米つきなどで利用されていた。



27 めだかの学校
めだかのがっこう
童謡「めだかの学校」は、童話作家茶木滋による作詞。昭和25年(1950)にNHKから依頼を受けて、芋の買い出しの途中、この付近で息子と交わした会話を基にして作られた。

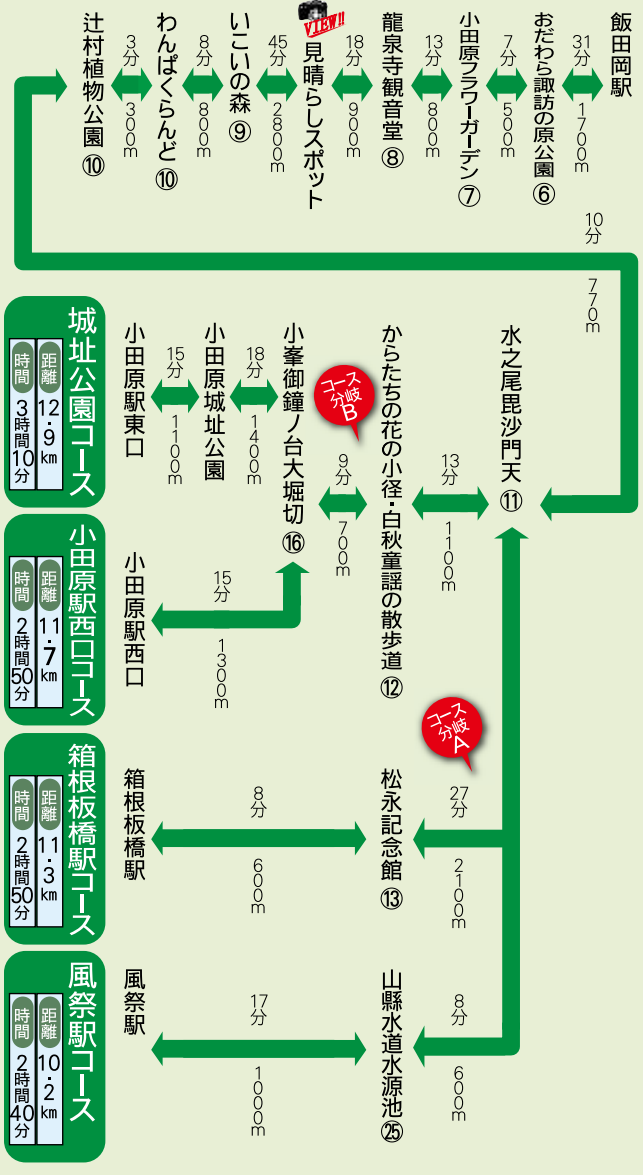
ARポイント

カメラを向けると、現存しない城郭などの史跡を色鮮やかにスマートフォンの画面を通して再現し、当時の様子を体験できます。市内に十数箇所のスポットがあります。

App Store Google Play

諏訪の原・西部丘陵ウォーキングコース

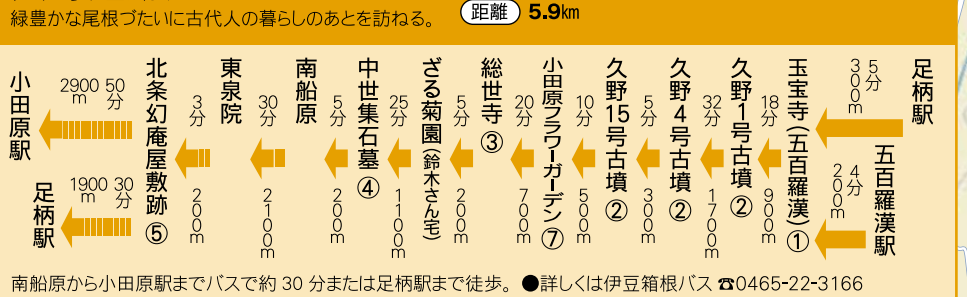
市街地を見下ろし相模湾を望む、なだらかな丘陵沿いのレジャースポット、文化施設を巡る。



- 注意事項**
- ・車に気をつけて、適度な休憩と水分補給を忘れず、散策をお楽しみください。
 - ・野生の生物等（サル、イノシシ、ヘビ、ハチ等）が出没することがありますので、十分に注意して歩行してください。
 - ・雨の日は足場が悪くなるところもありますので、歩行はご注意ください。
 - ・勝手に畑の中に入り、農作物をとるなどの行為はしないでください。

久野遺跡巡りコース

時間 2時間5分
距離 5.9km



南船原から小田原駅までバスで約30分または足柄駅まで徒歩。詳しくは伊豆箱根バス ☎0465-22-3166



道標を目印として歩こう!



見晴らしスポット 景色が最高!

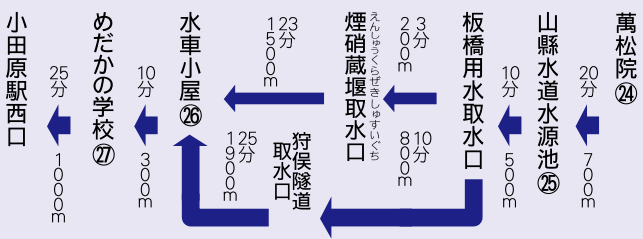


見晴らしスポット 景色が最高!

- 凡例**
- コース案内板
 - 道標
 - 眺望スポット
 - 開渠 (かいぎょ)
 - ARポイント
 - 旧東海道(箱根八里)
 - 総構
 - 萩窪用水
 - 小田原用水

萩窪用水散策コース

時間 1時間50分
距離 5.7km



【注意】急坂やけもの道など歩きにくい箇所あり。農林水産大臣選定「全国疎水100選」、社団法人土木学会「土木遺産」認定。

歴史と文化の香るまち散策コース

時間 2時間20分
距離 8km



※城址公園の散策時間を除く。



西海子小路校のトンネル



小田原城天山山回遊路

